

## 「私の学校自慢」

1. テーマ：「松阪地域に愛着をもち地域で活躍する看護実践者を育成するためのとりくみ」
2. カテゴリー：②教育内容（授業・演習・実習など）
3. 学校概要
  - ・学校名：松阪看護専門学校
  - ・所在地：三重県松阪市鎌田町 145-4
  - ・課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年
  - ・教育理念：地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する。
  - ・松阪に愛着を持ち地元で活躍できる人材育成のために、カリキュラム改正に伴い「地域と暮らし」1単位30時間を1年次前期科目に新設した。

### 4. 内容

この科目は「まち歩き」から始まる。8つのグループに分かれ、学校より徒歩圏内にある松坂城や御城番屋敷、本居宣長旧宅、松阪もめん手織りセンターなど松阪の歴史や文化が感じられる場所を訪ねる。また、松阪誕生より創業し400年以上の歴史をもつ老舗のお菓子屋さん等も訪ねている。まち歩き後は感じたことや気づいたことをグループでまとめ発表する。

グループ発表を終えた後は松阪市長をはじめとし、設置母体である松阪地区医師会の会長および地域の保健医療福祉の各専門分野の方々からの講義を受ける。講義を通して松阪市の医療提供体制の特徴や保健活動また防災活動など、命と暮らしを守るための松阪地域の保健医療福祉体制について学ぶ。さらに、地域で開催されるふれあい体育祭に参加し地域で暮らす障がいのある方とその家族、障害者団体の方々との交流を図り地域で催されている福祉活動の実際を体験する。

以上のようなさまざまな体験を通して松阪のまちのことを知り、さらに保健医療福祉体制が住民の暮らしと健康にどのような影響をもたらすかを考えるきっかけとなっている。また、この科目で得た知識や気づきは後に続く地域・在宅看護論概論の導入にもなっている。

### 5. 担当者の感想

松阪に愛着を持ち地域で活躍する看護実践者の育成が本校の願いであるが、この科目はそれを実現するための第一歩になっていると感じる。まち歩きでは案内や説明など多くの人にお世話になり、松阪の人と人とのつながりや温かさに触れることができる。そして地域の各専門分野の方の講義を聴くことで、住民の暮らしや健康は様々な人によって支えられており、いずれは自分もその一員となるという憧れや自覚を持つ機会になっていると感じる。何より入学早々の1年生が初めてグループ活動をする科目であるためお互いのことを知り、楽しみながら学べる科目であると感じる。



「まち歩き」本居宣長旧宅にて



「まち歩き」発表・意見交換



松阪を代表する豪商の邸宅。

旧小津清左衛門家は紙問屋として発展した小津家の本宅で、町家造りの主屋や2棟の蔵を保存・公開しています。

「まち歩き」の発表スライドの一部

## 「私の学校自慢」

1. テーマ：「リハビリテーション専門学校生との協同学習」

2. カテゴリー：③教育方法（授業・演習・実習など）

3. 学校概要

- ・学校名：松阪看護専門学校
- ・所在地：三重県松阪市鎌田町 145-4
- ・課程名：3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年
- ・教育理念：地域住民の健康と安全を守るために、人を大切にする心と考える力のある看護実践者を育成する。
- ・カリキュラム改正に伴い「多職種連携」1単位15時間を3年次後期に新設した。本科目の中では伊勢志摩リハビリテーション専門学校生との協同学習を取り入れている。開講は令和6年度からであるが、シームレスな看護教育を目指し令和3年度より旧カリキュラム学生も教科外活動として協同学習を実施している。

4. 内容

「多職種連携」科目の8時間分で理学療法士科の学生と協同学習を実施する。協同学習は一人の事例患者さんの情報を看護師、理学療法士それぞれの職種の視点から整理し、1枚の“多職種連携情報共有ワークシート”を使って整理していく。この情報整理を通して一人の患者さんの全体像を共通理解をする。その後、患者さんの退院に向けて共通の目標を話し合い、具体策を考える。多職種で協力して実施する事、看護師、理学療法士が独自の役割として担うことなど役割分担も含めて考えていく。また、多職種で効果的な連携を行うための留意点や工夫点なども話し合う。話し合った結果をグループ発表し学びを深める。グループワークには2校それぞれの教員がファシリテーターとなる。効果的なファシリテートができるようファシリテーションガイドを共有しそれを参考にしながら話し合いを見守る。

5. 担当者の感想

学生は実習の場で多職種が参加しているカンファレンスを見学することはあっても、実際に当事者としてディスカッションする経験はほとんどない。本科目では看護師と理学療法士と2職種ではあるが、意見交換できることは大きな意味があると考えます。他職種の得意とするところを発見し、連携・協働の大切さを実感することができる。そして、職種が違うからこそ視点や大事にしたい点が異なり、多様な視点から統合的に患者さんを捉える必要があることを学ぶことができる。さらに他の職種と効果的な連携を図るには他の職種の意見に耳を傾け、共通の用語を用いてコミュニケーションをとるなど連携方法にも工夫がいることを身をもって感じる事ができる。

このように協同学習は、松阪看護専門学校、伊勢志摩リハビリテーション専門学校両校ともに得るものが多く、今後ますます多職種連携の重要性が高まる医療や介護においてなくてはならない科目であると感じる。



それぞれの職種の視点から積極的な意見交換を行います。



看護師と理学療法士、2校の学生が協力して発表します。

